

「パートナーシップ構築宣言」

当社は、サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築するため、以下の項目に重点的に取り組むことを宣言します。

1. サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける（「Tier N」から「Tier N+1」へ）ことにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。その際、災害時等の事業継続や働き方改革の観点から、取引先のテレワーク導入やBCP（事業継続計画）策定の助言等の支援も進めます。

ITを活用した取引先との情報共有や業務のデジタル化を進め、サプライチェーン全体での効率化に努めると共に、災害などの有事や取引先の経営課題に対し、迅速に対処します。

健康経営推進についても、情報を共有し、取り組み支援をしていきます。

2. 「振興基準」の遵守

親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行（下請中小企業振興法に基づく「振興基準」）を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行のは正に積極的に取り組みます。

①価格決定方法

不合理な原価低減要請を行いません。取引対価の決定に当たっては、下請事業者から協議の申入れがあった場合には協議に応じ、労務費上昇分の影響を考慮するなど下請事業者の適正な利益を含むよう、十分に協議します。取引対価の決定を含め契約に当たっては、親事業者は契約条件の書面等による明示・交付を行います。

②型管理などのコスト負担

型取引の適正化に取り組み、不要な型の廃棄を促進するとともに、下請事業者に対して量産終了後の型の無償保管要請を行わないよう、十分配慮します。

③手形などの支払条件

下請事業者との取引に対する下請代金は、全額現金で支払います。

また、支払い条件は月末締め翌月末払いとします。（検収後 60 日以内）

④知的財産・ノウハウ

契約上知り得た下請事業者の知的財産権やノウハウに関し、予め下請事業者の承諾を得ることなく利用しません。また、知的財産権の無償譲渡などは求めません。

⑤働き方改革等に伴うしわ寄せ

取引先も働き方改革に対応できるよう、下請事業者に対して、適正なコスト負担を伴わない短納期発注や急な仕様変更を行いません。災害時等においては、下請事業者に取引上一方的な負担を押し付けないように、また、事業再開時等には、できる限り取引関係の継続等に配慮します。

3. その他

2018年度より実施の「協業先様との取引環境に関するアンケート」を毎年度実施し、調査結果に基づき必要に応じた対応を講じる事で、長期的な信頼関係の構築に努めます。

2024年4月1日

トヨタ紡織九州株式会社 取締役社長 伊丹 正